

## 教育の目的は「人格の完成をめざす」もの 点数競争を激しくする全国一斉学力テストは中止に

### 文科省は、14年度学校別結果の公表を認めたことは重大問題

全国一斉学力テストは、小学6年生と中学3年生を対象に、教科では、小学生が国語と算数、中学生が国語と数学。他に質問調査があり、①児童・生徒の学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査。②学校の指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査の2つです。

文科省は14年度のテストについて、これまで禁じていた自治体による学校別結果の公表を認めました。学校別結果の公表は、点数競争をさらに激しくし、教育をいっそう学力テスト対

策偏重でゆがめ、豊かな学力の形成を妨げる恐れがあります。

村教育長は、「児童・生徒への指導に生かすためテストには参加するが、学校別結果公表は、点数・数値がひとり歩きし、本来の目的が歪められると考え公表しない」と、13年12月議会で述べました。

公表しない考えは、当然と思いますが、そもそも国のテストの目的は、競争により点数を上げようとするもので、本来の教育の目的とは相容れないものです。

テスト自体、即、中止すべきです。

### 【神戸新聞からご紹介】

## 阪神・淡路大震災から19年 当時の恐怖、今も続く

阪神・淡路大震災から17日で、丸19年になる。震災後、被害が比較的少なかった北播磨に移り住んだ人は多い。小野市育ヶ丘町で暮らす北村富貴子さん(69)と西山武志さん(44)は震災当時、神戸市兵庫区でそれぞれ被災。当時の恐怖は今も続き、救援活動に何もできなかった後悔を感じている。震災はそれぞれの胸に刻まれている。北村さんは1995年1月の震災当時、兵庫区会下山町のアパート2階で寝ていた。揺れとともに天井が落ちた。着の身着のまま台所の窓から外に出た。息子の友人の母親が家屋の下敷きになっていた。駆け付けたが、人の力では助け出せなかった。そのうち、街のあちこちで火の手が上がった。

同区上沢通から会下山町にかけての大火は2日間燃え続け、家屋の約7割が全焼、全壊したとされる。

当時、上沢通に住んでいた西山さんは、大火を前にたたずんだ。震災直後から次々と火の手上がり、消火器は既に持ち出されていた。なすすべなく燃え広がった。

勤めていた同区荒田町の理容店は同年1月末に営業を再開。喜んでくれる客から病院や避難所での話などを聞き「良いことも悪いことも見えてきた」という。

北村さんは家族5人で実家のある育ヶ丘町に避難し落ち着いた。今は孫に囲まれた生活に感謝する一方、ヘリコプターの音を聞くと恐怖がよみがえる。自宅のあった会下山町には行くことができない。「あれから19年にもなるのか。震災は昨日のここのよう」

西山さんは震災から2年後、育ヶ丘町で独立開業した。東日本大震災は人ごとには思えず、インターネットのブログで経験を伝えた。被災地では、トイレの水に困ること、正しい情報が必要なこと、できる人から仕事をする事が復興につながる事…。1年間、義援金も振り込んだ。

「当時何もできなかったという後悔が今も残る」と西山さん。災害時の集合場所を家族と決め、家がつぶれても備蓄の水を取り出しやすいようにし、子どもたちにも経験を伝えている。(高田康夫)



「一人一人に何が出来るか」。19年前の経験を胸に、小野市で理容店を営む西山武志さん＝小野市育ヶ丘町